

# かわらばん

第44号 2022年6月10日



2022年参議院議員選挙に向けて ① オンライン勉強会「女性参入を妨げる日本の選挙法——国際比較の観点から問題点と打開策を考える」報告……角田由紀子

② 投稿 「改憲反対・戦争反対を掲げ地元の清水から参加」……石垣鈴江  
「今こそ憲法を護り、生かそう」……伊東 輝

③ 女性議員たちおおいに語る 女性参政権記念イベント「パリティが平和をつくる」第一部から（抜粋）  
参議院議員選挙に向けて——今、私たちにできること……一票で変える女たちの会（再掲）  
戦争を止める、遠廻りの道～あるメールでの会話から……T・M  
今も名誉回復を求める闘いが続く、戦後の大冤罪事件を知る書  
石川逸子著『三鷹事件 無実の死刑囚 竹内景助の詩と無念』……村山千津子  
「再審法改正を求める国会請願署名」その後のご報告  
短信：一票で変える女たちの会FBから

\*記事中のインターネットアドレスは、出典サイトとリンクされています。クリックするとリンク先が開きます。



粕谷祐子さん 専門は比較政治学、東南アジア政治。著書に『アジアの脱植民地化と体制変動』（白水社）、訳書に『それでも選挙に行く理由』（白水社）など。

公職選挙法について私たちが知っているのは、選挙違反行為についての報道程度である。そもそも、この法律はどういう目的で作られたものか、女性や若者などの参入の困難さとどんな関係があるかを、今回の講義で初めて知った。驚くことばかりで、いかに無知であつたかを思い知らされた。タイ

すべてが現職有利につくられた

二〇二二年五月二十八日、慶應義塾大学教授（政治学）粕谷祐子さんをお招きして公職選挙法のオンライン勉強会を行った。（報告・角田由紀子）

## 女性参入を妨げる日本の選挙法

——国際比較の観点から問題点と打開策を考える

二〇二二年参議院議員選挙に向けて 1

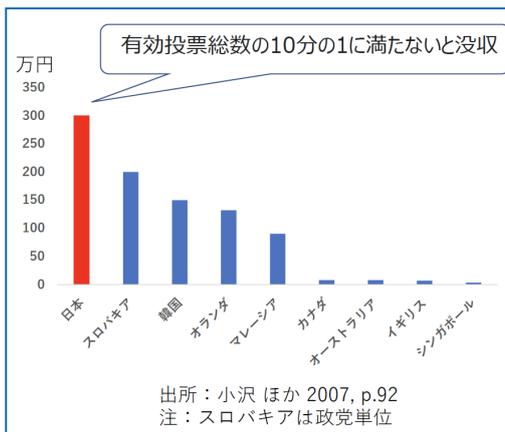
トルにある通り、日本の選挙法は悪い意味で特殊であり、それが女性や若者等の参入を妨げる制度として一九二五年以来存続してきている。選挙法を歴史的に、且つ、国際的視野で見ると問題点が鮮やかに浮き彫りになる。一九二五年、男子普通選挙の開始と共に、公選法の基になる普通選挙法が制定された。その目的は、男性であればだれでも選挙に出ることができるようになったために、既に議員であつた裕福な男性たちが、無産者などの参入をいかに防ぎ、自分たちの既得権をいかに守るかということであつた。すべてが現職有利に作られた。それが今に続いている。敗戦直後の占領中は、一時ア

メリカ式の自由度の高い方式が考えられたが、保守勢力の吉田茂内閣の時、一九五〇年に公職選挙法が制定され、現在に続く極めて窮屈なものに戻った。

お話を聞きながら目から何枚鱗が落ちたことか。驚くことだらけであった。戦後最初の選挙で多くの女性議員が当選したことは語り草になつてはいるが、当選した女性たちは現職議員の妻や娘たちであつたとのこと。現職有利が形を変えただけであつたということだ。必ずしも、参政権運動をしてきた女性たちではなかつたということが分かれば、今に至る女性議員の少なさも頷けよう。

### 選挙期間は独裁国なみの短さ

現職有利は、例えば選挙運動期間の短さに現れている。日本のように短い期間は、独裁政治の下では新人は有権者に自分を知ってもらう時間がなく、現職議員は在職中に常に自分の宣伝ができる。戸別訪問を禁止しているのは、日



本だけとか。戸別訪問の効果は、投票率が上がり、新人候補者を知ることができる点であることは、多くの研究が裏付けている。日本の低い投票率改善には、選挙に行つた人にお店がクーポン提供のようなサービスをすることではない。世界一高い供託金は棒グラフで示された各国比較で一目瞭然であつた。供託金は、普通選挙導入にあたり、無産者等を排除する目的で導入されたが、今は泡沫候補の参入防止と言われている。しかし、その効果はないことははっきりしている。選挙カーが候補者の名前だけ連呼して回るおなじみの光景は、移動しながらの演説が禁

止されているからとかで、別に候補者が無能であつたわけではないと知つた。

### 参院選で女性議員を増やす

粕谷さんたちの調査によれば、有権者は女性や若者の候補者に抵抗があるわけではないが、兼業禁止など議員活動の在り方の制約がこの人たちを立候補から遠ざけているとのこと。女性や若者が議員になれるような制度改革を進めることで増やす道がありそう。北欧では比例選挙なので、女性や若者が候補者になりやすい。

さらに、粕谷さんたちの調査によれば、参議院議員は任期が固定されており、安心して議員活動に専念できるという利点があり、女性議員数はおよそ衆議院の倍であり、ここを女性が狙うのも良い作戦のようだ。

ゆくゆくは、公選法は人権侵害で憲法違反という裁判も考えられるかも知れない。新しいことをたたくさん学んだが、改めて無知の恐ろしさも実感した。平凡な感想だ

が、改革はまず知ることからと思つた。このような勉強会があちこちで開催されることが必要だ。  
(五月二九日)

この原稿を書いた後で『非戦の誓い「憲法9条の碑」を歩く』(伊藤千尋著、あけび書房、二〇二二年)を読みました。その中に元京都府参与の茶畑保夫さんのことが出てきます。茶畑さんは兵庫県福崎町の選挙弾圧事件の記録を出版しているとのことですが、彼は、日本の公選法の見直しを求めて活動をしている人です。何と、国連の国際人権規約委員会は日本に対してたびたび公選法の見直しを求めているというのです。茶畑さんは「がんじがらめの非民主的な選挙活動の規制は日本国憲法にも違反しており、国際標準の自由で旺盛な選挙制度にすべきだ」と提唱しています(同書一一四〜一一五頁)。私たちはこういう積極的な運動を起こさねばならないと痛感しました。「選挙活動は規則が厳しいもの」という呪縛から解放されねばならないと思います。(了)

### 改憲反対・戦争反対を掲げ

### 地元の清水から参加

石垣鈴江

まず最初にご紹介したいことがあります。実はみなさまよくご存じの国際政治学者、畑田重夫先生の近況についてごく簡単に！

先生は一〇年前から、静岡市清水区の山の手のケアハウスにお住まいです。ここから全国に講演活動や各種会議などにご出席でしたが、ご高齢になられた最近はごく近くの静岡、清水ぐらいしかお出かけ出来ず、三週間ほど前、少身体調を崩され近くの病院に検査入院されています。

大変心配しましたが昨日、入院中の先生からお電話があり、リハ



ビリを頑張っています……と。ひとまず安心しましたが、何しろ今年の九月五日、先生は九九歳を迎えられますので、とにかくお元気でご退院されることのみを、全国のみなさま、そして地元の私たちも祈るのみです。

さて、突然起こったロシアのウクライナ侵攻、悲惨な戦争の渦中、この平和憲法を持つ日本で、信じられないような真逆の、軍事大国を目指すかのような自公政権にだれ込むように取り込まれていく、野党と想っていた政党の姿を見ていると、かつての戦争前夜を思い恐怖を覚えます。宝物のわが憲法を世界に広げて「紛争を戦争にしないで外交交渉で!!」とずつと、がんばって闘ってきましたが、反対の勢力によって、とても危ないところに来ていると思います。

全国で起こっている「改憲反対」「戦争反対」の大きなこえに、私たちも地元、清水からますます元気で、憲法をまもる強い思いを託して参加しています。

そのひとつ、毎月JR清水駅、草薙駅、大型スーパー前などで、

大きな横断幕を中心に、それぞれ持参のアピールグッズで、改憲反対、戦争反対、ウクライナに平和を！など、スタンディング、ビラ入れ、署名、スピーチ、ウクライナ募金など、一方で合唱の仲間たちの歌、演奏なども賑やかに、四五分から一時間程度の行動をしています。

今年の一月から始めて、今月の一七日が第六回目、最近は駅でも大学、高校、中学など学校周辺を選んで、若い層に向けて発信しています。回を重ねるごとに、学生もチラシに手を出してくれました。最近の活動参加者はうれしいことにますます増加傾向で三〇人程度は集まります。

つぎにもう一つの行動をご紹介します。 JR静岡駅前のミニシアターで、これまでも私たちの推薦する映画を劇場と共催という形で上映、監督さんの舞台挨拶など催してきましたが、コロナ禍で劇場も苦戦しているなか、私たち「九条

の会」へこの度、映画共催の申し入れがあり、早速八月に伊勢真一監督の「いまはむかし」の上映と監督さんの舞台挨拶を決めました。入場チケットは双方で各一〇〇枚ずつ分担です。

この映画が、さきの戦争での私たちの国の、アジアに対する加害の責任について考える機会ではないかと、劇場から勧められ清水、静岡の各平和団体ですぐに共催に賛同しました。

これまでも映画共催でお互いにいい実績を残していますが、憲法を考える世論づくりについても、映画という何より強い味方を得て、この関係を大切にしていこうと思っています。この劇場の、映画を選ぶ確かな目にも、私たちは大きな尊敬を感じています。

これからの上映予定のなかには、「私のはなし部落のはなし」(満若勇咲監督)、「教育と愛国」(齊加尚代監督)、「百年と希望」(西原孝至監督)などが入っています。私もこの映画館の会員ですから、これからは大変たのしみです。 六月四日(清水女性九条の会)

## 今こそ憲法を護り、

### 生かそう

伊東 輝

ウクライナでの戦争が始まって二カ月余、その惨状に心を痛める中、日本の政界やメディアでは、この機に乗じて敵基地攻撃能力（反撃能力と言換え）、防衛予算増を検討、そして改憲論議も勢いづいている。

護憲、特に九条を護る立場の私たちは以前から改憲の動きに抗して署名を集め、安保法制違憲訴訟を提起してきた。ただ私自身は、九条以外では二四条を始め生活の中で具体的なことと結びつけて条文を実感してきたが、九条に関して普段の生活と結びつけた話し合いが不足していたと反省している。内田樹氏が近著で述べているように「護憲運動の主体だった戦中派は憲法に自分たちの願望と子どもたちの未来を託すという明確な自覚をもっていたが、戦後に育った人は憲法をぼんやりと享受していた」（筆者要約）という指

摘のとおりかもしれない。

そんな中、昨年『丸腰』国防論／憲法の理念、今ここに！』を紹介されて読んだ。年齢・職業もさまざまな六人が問題提起し、何回も自由に意見交換をしている。政治家や識者の国防論は、国家が前面に出て生活者は後方に置かれているのに対し、生活者が国防の主体となる議論をしているこの本には共感し、学んだ。

そして今年二月に始まったウクライナでの戦争を見て、ますます「生活者が国防の主体となる」議論こそが重要だと思う。また、憲法九条を持つ日本が外交を通して停戦のために動くことを考えよう。理想論ではダメという声はあるが、逆に、改憲したとしてどのように安全が保障されるのか明確ではない。理念なきリアリズムでは停戦も平和も実現しない。

七月の参議院選挙は、改憲の動きを左右する大切な選挙だ。自民党の四項目の改憲案は九条以外にも問題が多い。メディアに惑わされることなく、安全と保障に限らず、まさに生活者の視点で諸問題を考

え、一票を投じたい。

（五月二日）

\*憲法第一章については留保し（機会があれば論じる）、ここでは全体として護憲とする。

\*内田樹氏の近著は『戦後民主主義に僕から一票』（二〇二一年、SB新書）。

## 二〇二二年参議院議員選挙に向けて

### 女性議員たちおおいに語る

女性参政権記念イベント「パリテが平和をつくる」第一部から

四月一日、女性参政権記念イベント「パリテが平和をつくる」

がオンラインで開かれた。パリテとはフランス語で「同等、同一」の意。フランスでは二〇〇〇年に、国会議員を男女同数にするなど政治参画の性平等をめざし義務づける通称パリテ法と呼ばれる法が作られた。日本でも同様の法をつくらうと活動する女性団体「パリテ・キャンペーン」と「WAN（ウィメンズアクションネットワーク）」がこの集会を企画共催した。

集会の第一部「平和とパリテ」

\*『丸腰』国防論／憲法の理念、今ここに！（国防を考える市民懇話会編、二〇一五年、ゆう出版）は

絶版だが同書をもとにした『非戦の国防論・憲法九条を活かした安全保障戦略』がある。（あけび書房、二〇二一年）

では、国会で活躍してきた、そしてこれからも活躍してほしい女性議員三人が登場、平和と平等、政治にかける思いを語った。第二部「若年女性が抱える困難」には貧困や性被害にさらされる若い女性たちへの支援に心血をそそぐ活動団体からのメッセージがあり、非常に内容の深い豊かなシンポジウムであった。ここでは第一部の要旨を紹介する。全編WANのホームページに公開されているのでぜひ視聴されたい（<https://wan.or.jp/>）。

第一部に登場したのは発言順に、田村智子参議院議員（日本共産党副委員長）、辻元清美元衆議院議員（立憲民主党元政調会長）、福島みずほ参議院議員（社会民主党党首）。

## ☆平和への思い

### 田村智子さん

政治の道に入った二〇歳のときは、米ソの軍拡競争がすさまじく行われ、核戦争三分前と言われていた。それに対して広島・長崎の



左上から時計回りに司会の岡野八代さん、田村智子さん、福島みずほさん、辻元清美さん、

被爆者のみなさんを中心に反核運動が起き拡がった。国会で反核の声が出ないのはおかしい。ウクライナ戦争に反対すると共に、国として核をどうするか議論していきたい。

### 辻元清美さん

四〇年ほど前、過去の戦争を見つめ未来の平和をつくる、というスローガンでピースボートを設立し、国際協力と平和、紛争地の仲介、人道支援などに取り組んできた。今日は女性参政権を獲得した日。市川房枝さんの「平和なくして平等はなく、平等なくして平和なし」を合い言葉に、その思いを受け継いでいきたい。

### 福島みずほさん

一九九八年当時、社会党党首の土井たか子さんに、憲法九条を変えさせないために国会で一緒に頑張ってほしいと説得され、立候補を決意した。弁護士としてさまざまな人権侵害の裁判をやっていたが、戦争ほど人の人生を根こそぎ奪って変えてしまうものはない。

だから九条を変えさせないために国会で踏ん張るといのが私の原点。

## ☆コロナ、ウクライナ紛争の危機に考えること

### 田村智子さん

核共有などという言葉がまかりとおっていることにたいへん怒りを感じる。ロシアの侵略戦争を止めるためにどうするかを熱心に議論すべき時に、敵基地攻撃能力があるんだとか言うのは国民の不安に乗じているとは思えない。戦争の起きる前に問題解決の話し合いの枠組みを作れなかったのはなぜか、中国、北朝鮮、ロシアとの領土問題でも揉め事を戦争にしないためにどうすればよいか、冷静に国会で議論すべきだ。唯一の被爆国であり、憲法九条をもつ日本として何を果たしていくべきかを議論していきたい。

### 辻元清美さん

日本は憲法九条であらゆる紛争を武力で解決しないと宣言してい

る国だからこそ、こういうときに活躍できると思う。日米安保条約があっても中立的な立場で仲介できるはず。その努力もせずに、核シェアリングとか九条を変えるとかいうのは、政治を放棄しているのと同じだ。今は戦争への道へ行くのか、仲介や人道支援に力を尽くす国であるかの分かれ道にある。核は危ないから廃絶という方向に行くのか、だからうちも核をもつのか、私たち政治家は、日本は核兵器廃絶の先頭に立つ方へ舵を切るべきだと思う。

### 福島みずほさん

憲法を変えて日本を戦争のできる国に変えようという動きが強まっているが、日本国憲法前文は、政府の行為によつてふたたび戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、主権が国民に存することを宣言している。おろかにも政府がまた戦争を始めないように主権者たる国民がしっかりと声を上げ、と言っている。民主主義が生きていけば戦争を止められる。戦前は女のいない民主主義

だったが、いま選挙権、被選挙権をもっている女が意思決定の場にもっと出て行き、戦争をしない国であり続けること、平和をつくっていくということに私もかけていきたい。

## ☆女性議員を増やす意義

田村智子さん

日本が犯した侵略戦争で女性の人権がどれだけいためつけられたか。従軍慰安婦はねつ造だとか、教科書から消せるとか、過去の戦争に反省のない人たちが、今回の戦争に乗じて九条を変えろとか核共有とか敵基地攻撃能力だと煽っている。中にはタカ派女性議員もいるが、多くは男性議員。戦争で相手から領土や財産を奪う、その財産を受け継がせるには男系の自分の息子に受け継がせる、それで女性は男性の所有物にされたということが歴史の中で延々と行われて来た。だから女性にはより多く、戦争はイヤだというDNAが受け継がれてきていると思う。戦前、女性は演説会に参加するな

どの政治的な発言・行動の自由も制限されていた。子どもを奪われ、夫を奪われ、戦時性暴力で苦しみ、戦後も苦しみ続ける、こういう苦しみについて言うことも許されないという立場におかれ続けてきた。その歴史をみたまに、やはり政治の場に女性が必要だということとは明らかだ。

辻元清美さん

DVやセクハラは戦争と地続きと思う。あらゆる暴力は力で何でも押し切つていこうというマチスモ、男性の権威主義とかだ。それに対峙するのは参加と共感の政治だ。痛みや様々な問題に共感し、多くの人が参画することで解決していこうとする。これは女性の方が多いのではないか。たとえばアーダーン首相やメルケル首相など。女性の方が共感力、参画を促す力がある。人権とか不平等について女性の方が敏感と思う。時代を変えるのも女性が主役ということがあった。ベルリンの壁が崩壊したきっかけは、チェルノブイリの事故だった。情報公開をしな

い、子どもにこのミルクを飲ませても安全なのかどうかという不安をもった女性たちが東ベルリンでロウソクデモをはじめた。その動きがヨーロッパに広がって、最後にベルリンの壁を押し倒した。だからやはり、このマッチョな男政治に対抗するのは闘うリベラル女子だと思う。

福島みずほさん

この生きづらい男性社会を変え、というのがジェンダー平等のほんとうに大事なことだ。意思決定の場に女性が進出して、変わることに女性が進出して、優先順位。二〇〇二年にDV防止法を超党派で作ったとき、女性への暴力問題は、女性の国会議員がやろうと力を合わせた。二つめに、幸か不幸か、女性たちはあまり利権をもっていないから、原発利権、防衛利権、軍需利権などに動かされないという意味がある。三つめにスヴェトラナ・アレクシエーヴィッチさんの言うように「戦争は女の顔をしていない」。育児や介護など、家の中でも外でも圧倒

的にケア労働に従事してきた女性たちは、戦争で人を殺すことに男性よりも距離がある。敵国の人も子どもも殺したくない。新自由主義は人の命を軽んじるが、雇用でもコロナ禍でも戦争でも人の命を粗末に扱うことは地続き。だからパリテで女性もつと意思決定の場に出て、半々になれば政治が変わり社会が変わると思っている。

## ☆参院選に向けたメッセージ

田村智子さん

改憲と核シェアリングを言う勢力に参議院の三分の二を取らせるわけにはいかない。憲法九条を生かすということを豊かに語る参院選にしたい。女性が増えなければいけないと切実に思うのは、リップロダクティブ・ヘルス&ライツだ。生理・妊娠・中絶の権利。これは女性でなければ痛みもわからないし、苦悩もわからない。女性がこれを権利にしていくことに挑戦していく、そういう参議院選挙にもしていきたい。

辻元清美さん

わきまえない女がいつぱい立候補して通ったら、政治が変わる。ロシアに強い野党がいたら戦争を回避できていたかもしれない。野党は批判ばかりしているという批判には、女の方が粘り腰でぐっと仁王立ちして絶対ここはゆずれないよと言える。女性が参画していくと密室でなくて情報公開度が高くなると言われている。だから私は強い野党をつくること、わきまえない女性を増やすことをめざす。ここで憲法とか変えられたら死んでも死にきれない、そんな気持ちでもう一回がんばろうと思っている。

福島みずほさん

今度の選挙は本当に大事。私たちが戦争をしないと決めた下で生き続けることができるのか、政府が戦争を起こすことが可能な政治にしてしまうのか、重要な局面だ。だから護憲の社民党としてなんとしても議席を増やし、私も国会に残って、たくさんの人とがんばりぬきたい。私が元気なのはシ

## ◆参議院議員選挙に向けて——今、私たちにできること◆

コロナ第6波がまだ収束しない中、2月24日にロシア軍のウクライナ侵攻が始まり、また東北大震災・東電福島原発事故から11年となり、希望より不安が深まる日本の政治・経済状況です。岸田内閣発足から半年、様々な課題にどう取り組むかを見極めただす機会がきたる参議院議員選挙です。2016年の参議院選挙の際にも出した「私たちにできること」を再掲します（一部変更）。参考にしてください。

◇自分で標語を作って、周りの人に語りかけ、広げる。例えば、「改憲阻止に1票を！」または「改憲阻止の考えのかたに1票を」「選挙に行こう！」その他、自分の言葉で！

◇今できること、気をつけたいこと

○手紙、ハガキ（私信）は何を書いても大丈夫。

○友人・知人への電話。「野党共闘に一票を」「改憲阻止に一票を」など。

○ホームページ、ブログ、facebook、などを利用した応援。

メールは原則OKですが、直接「○○さんに投票お願いします」という依頼はNG。

○候補者の街頭演説に参加して、写真や動画をメッセージとともに配信。「選挙に行こう」のスタンディング・デモの写真を載せるのもOK。

○候補者のチラシについては、候補者の街宣時にその音声が届く範囲で配布できます。ただし、証紙が貼ってあるものに限りです。応援する候補者が決まっているなら、選挙事務所を訪ねてみてください。励ましの声だけでも力になります。

注意：公職選挙法により、できることが制限されるので、不明な点は選挙管理委員会に問い合わせてください。

◇投票する権利は2票です。

1枚目は地方区。これは立候補者の名が投票所内に貼り出されています。2枚目の比例代表は候補者名、あるいは政党名を書きますが、期日前投票所では名前のリストが貼っていないことがあるので、字を間違えないように確かめるためメモなどを持参すると安心です。

今回の選挙はいつにも増して重要です。「これからできること」「いま自分はこんな運動をしている」などのアイデアがあれば、一票で変える女たちの会までお知らせください。情報をシェアし、拡散しましょう。宛先は12ページをご参照ください。

スターフッドのおかげ。いい女たちが支えてくれる。男社会だけでなく、たくさんの女友達が支えてくれて、励まし合っている。たくさんの女たちで戦争をしない政治を実現していきたい。

(文責 三井)



## 戦争を止める、 遠廻りの道

あるメールでの会話から

T・M

かわらばん43号発行後しばらく経った日に、Kさんからメールをもらった。

Kさん（この文で後ほど触れるテーマの関係上、男性であること）を初めに記す。なお、筆者は女性）とは一年前、福島第一原発事故の後、反原発集会で知りあい、数年前からメールを時々交換するようになった。Kさんの広く深い考え、知識、そして地域での行動などを聞いて、いつも私は共感したり、刺激を受けていた。

かわらばんを読んでの感想も時々伺っていた。今回は「男性の私にとって読み進め難い記事もありました。日本の遅れは、ジェンダー問題をはじめ特に女性の社会進出を長年阻んできたことによると感じます」とあった。私は、文の後半の理解があるので安

心？したが「理解し難い」について具体的にたずねてみた。するとKさんは「妊娠中絶の問題のところで、両性の合意の結果にもかかわらず女性が一方的に危険と苦痛を伴う処方を強いられることを思うと、自分がその立場だったら、いかに辛いことかと思ひ、読み進め難い……との表現になってしまいました」と率直で誠実な返事を下さった。

この感性を多くの男性も女性も大事にすれば、戦争はもちろん、悲しい事件も、社会のあらゆる場面（政治、行政、司法、学校、実業界等々）での無神経な言動もなくなるのではないか、と思う。

飛躍するかも知れないが、ちょうど前日の「クローズアップ現代」で取り上げられた問題を思い起こした。「決定的証拠なき裁判」講演談社元社員の夫 有罪判決はなぜ」というテーマ、六年前に起きた事件についてである。この夫婦には四人の子がいて第四子は生後一〇カ月。そのある日妻が死亡し、夫が殺人で起訴された。一・二審

とも有罪で、現在最高裁に係属している。詳しくは文末注のサイトをご覧ください。NHKが独自に取材したある医師の「妻には産後うつ」の症状があり、自殺の可能性がある」という見方、そして被告が無罪の主張とともに述べたという「妻の死について私には責任がある」という言葉が強く心に残った。被告は人柄もよく、妻の親たちも被告が殺害したとは思えないとして審理のやりなおしを求める上申書を出しているとのことである。それにもかかわらず被告の妻が自殺した（と私も思う）背景には、猛烈社員、ワンオペ育児などの社会構造的な問題があったのではないかと。彼はそれに気づいて「私には責任がある」と述べたのだと思う。男性の育児休暇が認められるようになったとは言え、たつた数日というところもある。男性が女性の置かれている状況を理解するには、制度の改善とともに、先に触れた感性・意識が鍵だと思う。これらのことをKさんにも書いた。

Kさんにもう一つ私が書いたのは、しばらく前に読んだ次の本に  
関してである。

杉田俊介著『マジョリテイ男  
性にとつてまっとうさとは何か

# MeToo に加われない男たち』  
(集英社新書二〇二二年九月刊)

私は息子を育てるときには生  
活のいろんな場面でも、できる限り  
女性が感じる問題について彼に話  
した。息子は女性が働き続けるこ  
とについても自然に理解していっ  
たと思う。しかし孫は一緒に生活  
していないのでこういう問題につ  
いて話す機会がほとんどない。そ  
こでこんな本を通して話し合うこ  
とができるかと考えたのだ。太田  
啓子さんの『これからの男の子た  
ちへ』(大月書店)も考えたが、  
男性自身が書いたものには私も関  
心があった。著者の杉田さんは  
四〇代半ば。本書は四年かけて書  
いたとのことで、内容も女性が問  
題提起したことに真摯に向きあっ  
ていると思った。

世界には、先述した様々な分  
野で、感性に疑問のある男性が多

い一方で、すてきな感性をもった  
男性も少なくない。後者とともに  
未来を作れたら……と願い、その  
道を探りたい。遠廻りでも戦争を  
止める道だと思う。

(二〇二二年四月二一日)

\* [https://www.nhk.jp/p/gendai/ts/R7Y6NGL6G/blog/bl/pkEldmVQ6R/bp/dj5De06YvZ/?cid=gendaihk-tw-220420-1830&fbclid=IwAR0sc46h-w-kKEU7CGUd-ie4DZfKxxmHEsemj\\_5osjcfFBOBATEKvM1\\_IM](https://www.nhk.jp/p/gendai/ts/R7Y6NGL6G/blog/bl/pkEldmVQ6R/bp/dj5De06YvZ/?cid=gendaihk-tw-220420-1830&fbclid=IwAR0sc46h-w-kKEU7CGUd-ie4DZfKxxmHEsemj_5osjcfFBOBATEKvM1_IM)



### 今も名誉回復を求める闘いが続 く、戦後の大冤罪事件を知る書

石川逸子 著『三鷹事件 無実の死  
刑囚 竹内景助の詩と無念』

村山千津子

戦後の混乱のなか一九四九年に  
起こった三鷹事件のことは一昨年  
九三歳で亡くなった母から聞いた  
ことはあったが、実際どのような  
事件だったのか詳しいことは知ら  
なかった。今年の春、詩人である  
石川逸子さんによって上梓された  
本書を読んで、三鷹事件とは、罪  
のない一人の真面目な労働者がア  
メリカ・占領軍と国家権力の謀略  
にからめとられ死刑囚に仕立て上  
げられた一大冤罪事件であったこ  
とを知った。著者は、竹内景助さ  
ん本人が死刑確定後必死の思いで  
書きあげた膨大な「三鷹事件再審  
理由補足書並びに上申書」を読み  
こみ、関連書も引用しながら、詳  
細にかつ簡潔に真実はどのような  
ものであったかを明らかにしてい  
る。同時に、書名にあるようにこ

の本は竹内さんが残した心情あふ  
れる詩に焦点を当て、彼の人柄と  
無念を読む人に伝えるものとなっ  
ている。

事件の発生は一九四九年七月

一五日午後九時二三分ごろ、国鉄  
三鷹駅構内に収容されていた電  
車が暴走しホームに突っ込み脱  
線、駅の南口交番をつぶし、道路  
を横切り、住宅に突入。結果電車  
の下敷きになって六人が死亡、重  
軽傷者二〇人近くという大きな人  
身事故となった。直後に暴走させ  
た犯人だとして、国鉄を解雇され  
た共産党員と竹内さんが逮捕起訴  
され、九人の共産党員は全員無罪  
となったが、竹内さんだけが無期  
懲役の判決を受け、控訴審では事  
実の取り調べもなく死刑判決に変  
更。最高裁で上告棄却され、死刑  
が確定した。

発生直後から事故は怪しい様相  
を呈していた。その夜現場ではや  
くざい風の男たちが縄を張り、「共  
産党員の仕業だ」と口々に叫んで  
いた、米軍MPが現れ現場を封鎖  
し日本側の調査は後回しになっ

た、駅前にあつた交番は暴走電車で粉砕されてしまったが勤務していた四人の巡査は全員無事だったなど。また逮捕者が出る以前、事故調査も終わっていない一六日に吉田茂首相が記者団に、無人電車を暴走させたのは共産党（または共産党員）であるとはつきりと示唆した声明を出し、さらにその翌日朝日、毎日、読売のマスメディアはいっせいに吉田声明を報道し、事件は共産党が関与したと煽りたてた。数々の事実から、「事故の発生前に、政府、国鉄、検察、警察などの関係機関は、事件が三鷹駅で発生することを予知していたことは事実と見てよいであろう」（小松良郎『新版 三鷹事件』）。

この時期一九四八年から一九四九年にかけては、朝鮮半島が分断され、中国共産党の勝利は間近に迫るといふ時代背景のなか、GHQの対日政策が「民主化」から「反共の砦」へと変化し、経済緊縮政策によって公務員の膨大な数の首切りが断行されようとしていた。それに対する反対運動の



梨の木舎 2022年  
3月刊 1200円

拠点が、共産党がリーダーシップをとる国鉄労組だった。竹内さんには明白なアリバイが存在し、逆に現場付近で竹内さんを目撃したという証言は不自然極まりないもので、事件の概要を知れば誰もが、竹内さんが犯人ではないことは明らかだと思っただろう。それなのになぜ有罪とされたのか。判決の唯一の証拠とされたのは「告白」だった。取り調べ検事の脅しに連日数時間さらされ、告白すれば求刑は軽くなる、白しなくても逃れる道はもうないと執拗に脅迫され、さらに自分を助けてくれるはずの担当弁護士から、単独犯行にすればみんなも助かると甘言があり、供述調書を認めてしまった。

高裁の死刑判決後、竹内さんは自分は事件とまったく関わりがない

という上告趣意書を最高裁に提出したが、死刑は確定。竹内さんはただちに再審請求を申し立て、六〇万字近くに及ぶ「三鷹事件再審理由補足書」を提出。支援の人々の協力を得て、家族への思いを綴った『春を待ついのち』を出版したり月刊誌で文章を発表するなど、広く市民に向けて懸命に訴え続けた。

このころの心境が次のような詩に表現されている。

(前略)

私に浅黄色の囚人衣を着せ  
フラゾウリを履かせ  
深編笠をかぶせた  
罪なく  
何も悪いことはしていないのに  
此の己の姿は何だ！  
罪人の姿とは！  
いつか秋風が吹き  
こほろぎが  
暗い牢獄の窓の下で  
すすり泣く囚人のように  
鳴くようになった  
体重は五キロも減って

その身を支えて  
喘ぎ喘ぎ  
どうしても「認定裁判」とかで  
罪もないのにやられるなら  
せめて九人の仲間のいのち  
せめてそれにそがれる  
愛の涙を救おうと思っただ  
いつか九人の仲間は  
小菅東京刑務所へ移ったが  
私は唯一人  
府中刑務所に残された  
検事の拷問を受け  
デッチ上げをつづけられた  
自らの調書のいつわりを  
知る彼らは  
長い間脅迫した上  
判事調書に署名させたのだ  
全ては私の  
悲しい予定通りのコースです  
んだ  
襲いかかる狂暴な嵐の前に  
私は自分ばかりがこういう立場に  
立った  
人間の無力を知った

だが一切の暴圧を  
食い止めるために闘う決意で  
断固「資本官僚の暴政」を叩きつ  
ける

趣意書を出したのだ

嵐は去った

そのあとは

文明と正義の名に於て

平和と無実の労働者に対する

死刑宣告の紙片が残った

想へば五年の才月は長く

また短かった

蒸釜むしがまのような夏の独房

冷蔵庫のような冬の牢屋

始めての留置所

始めての刑務所

何の罪もないのに

人間をこれ程勝手に

捕え痛めつけることの出来る

権力との始めての対決

〔風の歌〕の部分〕

全国から励ましの手紙も寄せられ、竹内さんは獄中で無罪を叫び続けたが、再審がまさに開始されようとしていた一九六七年、無念

のうちに獄死する。激しい頭痛、おう吐を訴えていたのに放置され治療を一切受けることなく脳腫瘍で。享年四五。竹内さんが亡くなつてから四〇年以上経った二〇一一年、竹内さんの長男、健一郎氏が第二次再審請求を申し立てたが、二〇一九年東京高裁は請求を棄却。健一郎氏はただちに異議を申し立てたものの、今年三月一日同高裁はまたも請求を棄却。現在弁護団は最高裁に特別抗告している。一日も早い名誉回復が望まれる。

本書では竹内さんの生い立ちを追ひ、自然に囲まれて郷里信州で過ごした穏やかな少年時代の様子や、絵や作文が得意で優しい性格、家族思いで子煩悩だったことも紹介され、その人柄を偲んでいる。竹内さんの素晴らしい絵や詩が満載されたこの美しい本をぜひ多くの人に読んでいただきたい。

雨の降る日

雨の降る日は

貧しさに傾いた家の軒下から

雨に湿った薪をもちこんで  
家の隅っこのおへっついで  
乏しい夕餉の支度をする  
妻の苦勞を想う

俺が家にいるときは

薪割は楽しい運動の一つだった

飯炊きも汁の実を刻むことも

俺は愉しく分け合ったが

今ではお前は弱い腕で

どんなにして薪を割っていること

だろう

鉈の柄が手に痛くひびいて

辛い生活を斗っているだろう

雨の降る日は

細く割れない薪は火つきが悪く

いつまでもいぶるもんだ

細々と横に這う煙が眼に入ると

それが生活の悲しみのように

涙が一杯出る

そんな妻子を想うと

今は本当に口惜しい境遇だ

この頃は長女が大きくなったので  
妻に代わって

湿って燃えつかないおへっついの

下を

ふうーふうー吹いているだろうと

思う

愉しい少女の日を

傾いた軒の隅で

乏しい夕餉の支度をしながら

けむりにむせる子らよ

すべては天災よりも非道な

暗い制度のための迫害です

(後略)

\*文中の詩はすべて『三鷹事件

無実の死刑囚 竹内景助の詩と無

念』からの引用・抜粋

\*支援組織

・三鷹事件弁護団

・竹内景助さんは無実だ！三鷹事

件再審を支援する会

・三鷹事件の真相を究明し、語り

継ぐ会



## 「再審法改正を求める国会請願署名」その後のご報告

かわらばん42号に投稿した標記の件について、五月二一日にメールでお知らせをしたように、五月二七日に議員と市民の集いがありました。出席議員は、(敬称略)鈴木貴子、本村伸子、高良鉄美、井出庸生、山添拓、福島みずほ、大石晃子の七名。有田芳生、打越さく良の二名がメッセージ参加。

会場に一〇〇名参加、オンラインでも一六名の参加がありました。また、再審法改正を求める決議をした自治体が九〇あり、今後が増えるでしょう。署名は五月二七日現在二〇七〇一筆集まり、今国会会期中に提出します。今後署名は続け、次の国会での成立をめざすとのこと。集いの詳細は、

[https://youtu.be/68WRFknkT\\_M](https://youtu.be/68WRFknkT_M)  
で今後も視聴できます。日弁連の再審法改正を求める特別部会の鴨志田祐美弁護士のご解説、布川事件で再審無罪になった櫻井昌司さん、

映画監督の周防正行さん、金聖雄さんの鼎談はいずれも貴重な発言です。冤罪被害者の声、映画予告編などもあります。お知り合いにインターネットにアクセスされる方がいらつしやれば、ぜひご覧下さい。

今後も隔月にインターネットでこのような会をする予定です。ホームページでご確認下さい。

五月二七日(伊東)



『一票で変える女たちの会』かわらばん★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎!

□口ナ禍の中の暮らし、本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。(一本について四〇〇字〜一六〇〇字)

宛先: 1pyodekaeru@gmail.com

郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックスNo. 45

FAX: 03-5684-1412

mail: 1pyodekaeru@gmail.com

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを!

郵便振替口座:

記号番号 00110-6-420003

□座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナたちノカイ

銀行等から振り込む場合:

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキユウ)

店 (019)

預金種目 当座

□座番号 0420003





## 短信

### 一票で変える女たちの会 フェイスブックから

会のFBから抜粋して情報を掲載します。詳しい内容はそれぞれのサイトをご覧ください。太字の見出しまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないとき、印刷版の場合は、見出しで検索してください。日付はFB投稿日。

6月7日

**中絶薬は承認されても配偶者同意はそのまゝ The Guardianの記事から** ~lovepiececlub.com

……なんと、日本に住む女性は、妊娠中絶薬の処方条件としても配偶者の同意が必要なままであることがいま議論をよんでいる……

6月4日

**あなたの賛同が必要です…強制性交等致傷罪に問われた男性の無罪判決(富山地裁、裁判員裁判)に抗議します** ~Change.org

(北原みのりさんのFBから)  
「大声で助けを求めなかったから」無罪判決。性暴力被害者に対してあまりに無理解な判決が出てしまいま

した。検察は控訴。抗議署名賛同しました。ご協力、拡散お願いします。  
<https://chng.it/wGf9PMpw>

6月4日

辛淑玉さん、DHC名誉毀損訴訟で、一審に続いて勝訴！

**東京MXの「ニュース女子」、高裁も「名誉毀損」賠償命令を維持** ~朝日新聞

沖縄の米軍基地反対運動について取り上げた東京メトロポリタンテレビジョン(MX)の番組「ニュース女子」で名誉を傷つけられたとして、人権団体「のりこえねっと」共同代表・辛淑玉(シンスゴ)さんが、番組を制作したDHCテレビジョン(東京)などに一一〇〇万円の損害賠償などを求めた訴訟の控訴審判決が3日、東京高裁であった。渡部勇次裁判長はDHCに五五〇万円の支払いと謝罪文のネット掲載を命じた一審・東京地裁判決を支持し、双方の控訴を棄却……

6月1日

**長崎県幹部が記者に性的暴力 市に一九七五万円支払い命令 地裁判決** ~毎日新聞(編注:六月八日、長崎市長が控訴を断念し謝罪、判決確定)

5月28日

見たくなくても聞きたくなくても、知らなければいけないことがある。「性売買のブラックホール」韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る」出版記念トークイベント 第一回 二〇二二年六月一日、第二回七月三日。後日配信あり。

**出版記念トークイベント(2回)**

6/11(土) 14:00~16:30  
シンバク・ビジョン  
会場  
6/19(日) 14:00~16:30  
被爆長江ノこゝろ  
ほか

書籍+参加チケット(参加のみも可能)

現場から当事者女性とともに打ち破る」出版記念オンラインイベント(全二回) ~SEIBAIBAI. PEATIX.COM

5月25日

引き下げは違法。二例目の判決。生活保護引き下げは違法」裁量権を逸脱」熊本地裁が二例目の判決 ~朝日新聞

5月20日

9月公開予定で、宣伝・配給のためのクラウドファンディングを実施中とのこと。ぜひ見たい映画ですね。原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち

二〇一四年。関西電力大飯原発の運転停止命令を下した樋口英明・福井地裁裁判長は、定年退官を機に日本の全原発に共通する危険性を社会に広める活動をはじめた……

5月16日

手塚治虫の漫画はかなり読んでいますが、在日朝鮮人の苦悩を描いたこの作品は全く知りませんでした。ご存知の方がいるかもしれませんが、WEB上で読めるので、お知らせします。五〇年以上前のものですが、手塚治虫の強い憤りを感じます。「誓」は「あなぐち」と読むようです。

(NKMさんのFBから)『ながい誓』手塚治虫(日本語版)サンデー毎日一九七〇年一月六日増刊号掲載。このマンガを歴史を忘れた、あるいは忘れていない日本人にお見せたいです。 |TRASHBAG.TS-TORY.COM





アフガンの女性たちを描く『明日になれば』監督が語る映画の背景  
5月12日  
無料配信です  
アフガン映画『明日になれば』タリバン制圧後出国したカリミ監督にインタビュー — DICEO-



科学者すべてに告ぐ。  
千葉工業大学

5月15日  
千葉工業大学の全面広告が目をついた  
すべての科学者に告ぐ  
戦争は急速に、良くない方向に進んでいる。その真ん中に科学技術が存在していることは、否定のできない事実である。最先端の技術が、他国の軍事力を凌駕するため利用される。命を救うための研究が兵器に応用され、いとも簡単に人命を奪う。戦争によって、技術革新は進んでゆく。その葛藤に我々は苦しみ続けてきた。しかし、科学者たちよ。今こそ声を上げるべきだ。すべての技術は人間を幸福にするため生まれ、世界に平和をもたらすためにのみ生かされるべきだ。と。  
千葉工業大学

LUS ONLINE

5月12日

あの古賀誠氏が憲法九条の危機を訴えている

宏池会元領袖・古賀誠氏が九条「語る会」を立て続けに開く背景 — 西日本新聞社

自民党の古賀誠元幹事長（八一）が、ロシアのウクライナ侵攻を機に勢いづく憲法九条の改正論議に警鐘を鳴らす動きを強めている。地盤とした福岡県南部で「語る会」を重ね、改憲に前のめりな党の現状を批判、平和憲法の堅持を訴える……

5月10日

このキャンペーンに賛同しませんか？「復帰五〇年」岸田政権に辺野古新基地建設の断念を求めます。 — Change.org

(二上智恵さんのFBから)  
復帰五〇年の年月で  
一九七二年の復帰の時までに  
解決すべきなのに  
解決できなかった課題を  
一つづつ前に  
進めてきた  
戦争の島から平和の島へ  
占領から解放へ  
前に進んでいるはずだった

なのに、いま  
米軍と自衛隊が

南西諸島を戦場にする覚悟の  
作戦を作っている

先島の自衛隊基地も  
もちろん辺野古も使われる

何のための辺野古新基地なのか？  
本当にみんなわかっているの？  
わからないのに  
これだけのお金を無駄にして  
自然を潰して

さらに戦争を呼び込むなんて！  
ハンスト中の元山仁士郎さんが  
声を上げるチャンスを作ってくれています  
せめて応援拡散したいです  
よろしくお願いします！



①辺野古新基地建設の即時断念  
②普天間飛行場の数年以内の運用停止

③日米地位協定の運用にかかるとしての日米合意を公開し、沖縄県を含む民主的な議論を経て見直すこと

5月10日

「本土復帰五〇年とメディアのいまを学ぶ」第三回「復帰」とは  
何であったか

(七沢潔さんのFBから)

いよいよ真打の登場です。……第三回の講師は仲里効さん……対話者は金平茂紀・TBS「報道特集」キャスター

(関連情報)  
第四回 七月三日(日)「沖縄戦報道の継続と変質」登壇者 西銘むつみ(NHK) 司会 金平茂紀(TBS)

5月5日

署名活動中…「サミットは六月二六日から」G7のリーダーたちへ…子ども性被害を根絶するためのアクションを！ #BeBrave



……私たちは、G7の国々から集まった、幼少時代に性暴力被害を受けた被害者団体「Brave Movement」のメンバーです。私たちが経験し

たようなことを、他の子どもたちが絶対に経験することのないよう、世界で最も裕福な国々であるG7のリーダーたちに対し、子どもたちの性被害を根絶するための大胆で革新的なアクションを求めます。  
change.org

5月3日

(坂元良江さんのFBから)  
**あたらしい憲法のはなし**。「正しいことをほかの国より先に行ったので」と書かれています。



4月26日

〈社説〉**映画界の性暴力 勇氣ある声、応える責任**—信濃毎日新聞

(特定非営利活動法人 性暴力救援センター・東京のFBから)

声明には、出版業界のセクハラ根絶に「立ち上がってこなかったことへの自戒と反省」も述べられている。業界の中にハラスメントの温床はないか、エンタメ界の全般にわたり点検する必要がある。(文中より)

被害者の方々があげた声に、社会が答える番です。



4月26日  
知の巨人、ノーム・チョムスキー！「ウクライナ戦争とアメリカの巨大な欺瞞」—全世界必見の動画！【日本語字幕付き】

4月25日

(Shunta KanamoriさんのFBから)  
東京新聞望月衣塑子記者と歩む会で出逢った人たちの会

言葉の置き換え。武器輸出三原則を防衛装備移転にしたり、共謀罪をテロ等準備罪にしたりとか。言葉を置き換えてごまかし、本質から逸らしていこうとする。中枢を攻撃するなんて先制攻撃じゃないですか。戦後の専守防衛を根本から変えることになることに気付かなきゃいけないし、それでいいのかということ……

4月16日

イシハラ カヨさんの今の気分…**悪な気分**—場所…早稲田大学日本橋キャンパスホール

勉強と気分転換に今日から早稲田大学の社会人向け「デジタル時代の総合マーケティング講座」に通い始めました。ただ、初日から激しく憤っております！マジで許せない。講師の吉野家の常務取締役企画本部長の方が、講義で性差別・人権侵害発言を連発。若い女性を狙ったマーケティング施策を「生娘をシャブ漬け戦略」と笑いながら何度も発言……

4月12日

名著「**戦争は女の顔をしていない**」NHK「100分で名著」公式サイト

……二〇一五年、「私たちの時代における苦難と勇気の記念碑」と評され、著者スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ (Svetlana Alexievich) がノーベル文学賞を受賞するきっかけとなった名著です……終戦から七七年目を迎える八月、「戦争は女の顔をしていない」に新たな光を当て、現代の私たちに通じるメッセージを読み解いていきます……

4月12日

中絶合法化は「女性に聞けば十分です」フランスで最も敬愛される政治家シモーヌ・ヴェイユの名演説



ウクライナに武器を投入すれば、ほとんど戦争は長引き、さらにウクライナ人が死ぬから……」



HUFFINGTON-POST.JP  
思想信条を問わず多くのファンを持つシモーヌ・ヴェイユ。彼女こそ、家父長制度が強固に編まれた時代にフランスを力強く変えていった「わさまえない女」……

4月11日

クレア・デイリー議員 (アイルランド) ★欧州議会での発言

(平山邦孝さんのFBから) 【日本では報道されない世界のニュース】話題になっている欧州議会のアイルランド議員であるクレア・デイリーさん「制裁で軍事紛争が終わることも平和になることもないと歴史が教えている。制裁は人々を苦しめるのであつて命を救うものでもない。」